

新潟県立がんセンター新潟病院 地域医療連携だより

NEWSLETTER



平成 28 年 2 月



基本理念

県民をはじめとする全ての患者さんに、最善のがん医療を提供します。

基本方針

1. 常に診療情報を開示して、患者さんとの信頼関係をもっとも大切にします。
2. がん診療連携拠点病院として、すべての医療機関と連携を密にします。
3. がんの研究を行うとともに、患者さんのための医療人の育成に努めます。
4. 病院運営の適正化と効率化に努めます。



Contents

新年の挨拶

肺がんに対する免疫チェックポイント治療
外来化学療法室移転のお知らせ

3月9日（水）地域医療連携講演会を
開催します

リニアック棟工事でご不便をおかけします
皮膚科外来・地域連携室よりお知らせ

平成28年2月外来診療予定表

院長あいさつ



本年もどうぞよろしくお願いたします。

新潟県立がんセンター新潟病院 院長 佐藤 信昭

現代は日本人の2人に1人はがんに罹患し、約3人に1人の死因ががんである（平成26年 年間死亡者数約36万人）という状況にあります。超高齢化社会を迎え、がん患者は圧倒的に高齢者に多い病気のため、がんで亡くなる人の数は増加中であります。本年1月からは全国がん登録が開始されました。全国どこの医療機関で診断を受けてもがんと診断された人のデータは国のデータベースで一元管理されるようになり、その情報をがん対策に活かす仕組みが始まりました。

国のがん対策は、「がん対策基本法」（平成19年4月施行）に基づく「がん対策推進基本計画」（平成24年6月閣議決定）に沿って進められてきました。しかし、中間解析では、がんによる死亡者の減少が17%にとどまり、20%の目標達成が難しいと予測されることから、新たに「がんの予防」、「がんの治療・研究」、「がんとの共生」を3つの柱とした「がん対策加速化プラン」が平成27年12月に策定されています。

さて、当院では昨年、外来化学療法室の拡充を行いました。外来化学療法室の増床で、より多くの患者さんに、通院で日常生活の質をできるだけ保ちながら、安全にがんの薬物治療をうけていただくことができるようになりました。また地域連携・相談支援センターの病診連携予約の受付時間を午前8時30分から午後7時までと2時間延長いたしましたので、こちらをご利用いただければ幸いです。

病院の運営に関しては、昨年、公益財団法人日本病院機能評価機構の更新を受審し、患者さん中心に良質な医療が実践されているか、組織運営が適切に行われているかを外部の委員に評価していただきました。

今年は診療報酬の改訂と共に地域医療構想の策定に向けての本格的な討議が各医療構想区域で深まります。

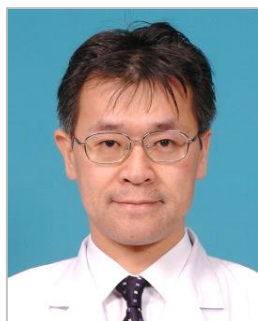
当院は都道府県がん診療連携拠点病院、また県立のがん専門病院として、安全・安心ながん医療（がんの高度・先進的な医療から、緩和ケア、終末期から看取りまでのトータル・ケア）の提供をめざしております。このためには、地域の病院、診療所、施設の皆様との連携を強化して、新潟県におけるがんの地域包括ケアシステムの構築を目指したいと思います。

がんになる人を減らす、がんが治る人を増やす、またがんになっても安心して暮らすことができるよう、本年も職員一同努力してまいりますので、皆様のご支援を何卒よろしくお願申し上げます。



肺がんに対する免疫チェックポイント治療

内科臨床部長 田中 洋史

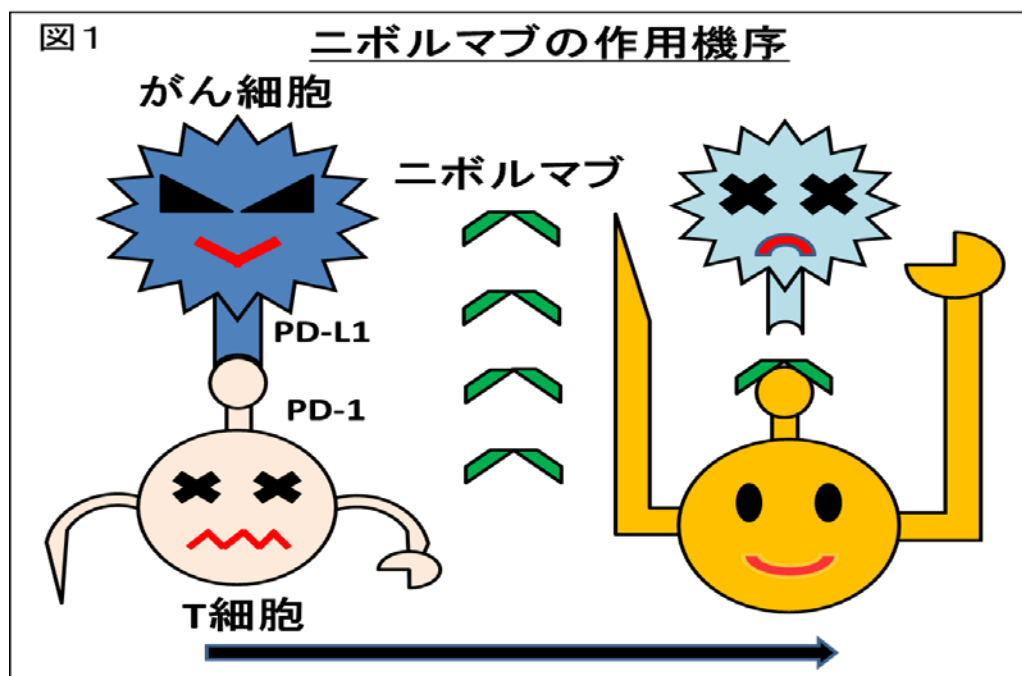


いつもご支援とご協力をいただき誠にありがとうございます。本年もどうかよろしくお願い申し上げます。

さて、2014年に悪性黒色腫に対して実臨床で導入開始された免疫チェックポイント治療薬が、いよいよ本年2016年から非小細胞肺がんに対して導入されます。先陣をきり、この1月から既治療の進行/再発非小細胞肺がんに対して、ニボルマブ（商品名；オプジーブ）の使用が開始されます。

がん患者さんにおいては、がんに対する免疫応答が抑制され、そのことが、がんの進展に大きく関与していることが明らかにされてきました。そのメカニズムの中で重要な役割を果たしているCTLA-4、PD-1、PD-L1などの分子に対する抗体などを用いて、がんに対する免疫応答を賦活化・再生し、がんの退縮に結びつけようとする治療が免疫チェックポイント治療です。1992年に京都大学の本庶佑先生がT細胞の表面に発現するPD-1をクローニングしたことが本治療開発の大きな出発点といえます。免疫チェックポイント治療は、Nature, Science誌でも大々的に取り上げられるなど、がんの薬物療法のパラダイムシフトを起こす可能性のある治療法として大きな注目を集めています。

このたび肺がんに対して使用が開始されるニボルマブは、T細胞に発現するPD-1に対するヒト型モノクローナル抗体です。PD-1が、がん細胞に発現しているPD-L1と結合するとT細胞の活性が低下します。そこをニボルマブがブロックし、T細胞による抗腫瘍免疫応答の増強からがんの退縮につながるという作用機序が想定されています（図1）。



海外で実施された二つの第3相試験；CheckMate017試験とCheckMate057試験では、既治療の進行期非小細胞肺がんに対する治療において、従来の標準的治療薬であるドセタキセルに対し、ニボルマブが有意に生存期間を延長することが示されました。同様のデザインで実施された国内第2相試験には当院も参加し、同様の結果がえられました。特筆すべきは、有効例の中に、長期にわたって病勢制御ができていない症例が存在することです。一方、その副作用は従来の抗がん剤とは様相が異なり、間質

性肺炎の他、甲状腺機能低下症、肝障害、副腎機能不全、腸炎、重症筋無力症など多岐にわたり、自己免疫疾患類似の病態が考えられています。中には副作用が重篤化し、致命的となった事例も報告されています。

免疫チェックポイント治療は、週刊誌やテレビ等でも取り上げられるなど、その注目度はたいへん高いですが、もちろん万能な治療法ではありません。ニボルマブの非小細胞肺癌に対する奏効率は20%程度と報告されており、重篤な副作用の可能性もあります。さらに、きわめて高額な治療薬であることから、今後は、治療方法や治療期間などの最適化が重要な課題です。症例選択におけるバイオマーカーとしては、がんのPD-L1の発現をみることの有用性が検討されています。がん組織がPD-L1を高発現していると、ニボルマブの効果が高い傾向にあることは示されましたが、PD-L1陰性例でも一定の有効性が示されており、その測定方法も含めてさらに検討が必要です。

現在、ニボルマブ以外にも、たいへん多くの免疫チェックポイント治療薬の開発が猛烈な勢いで進んでいます。対象となるがん腫は悪性黒色腫、肺がんにとどまらず、泌尿器科がん、婦人科がん、血液がん、消化器がんなどと、実に多様ながん腫に及んでいます。ひょっとすると、ほとんどすべてのがんの治療ガイドラインが、免疫チェックポイント治療の導入によって今後5年程度で大きく変わってしまうのではないか、と思われるほどの可能性が感じられ、ある意味で、“熱風”が吹いています。

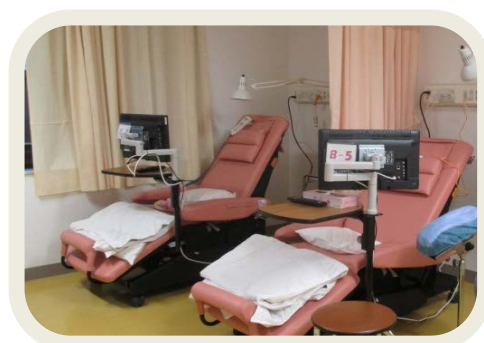
患者さんが求めているのは、いつの時代もできるだけ安全で効果の高い治療法であることはもとより、“ご自身にとって最適な治療法”であると考えております。新しい治療法に期待しつつ、これからもそれぞれの肺がん患者さんとそのご家族のために、適切な治療を提供できるように尽力いたします。皆様におかれましては引き続きご指導賜りますようお願い申し上げます。

外来化学療法室移転のお知らせ

化学療法認定看護師 磯貝 佐知子

化学療法は、手術療法・放射線療法と並ぶ、がんに対する治療の1つです。現在化学療法は①新しい抗がん剤や副作用をやわらげる薬の改良などにより外来通院でも安全に治療が受けられるようになった②患者さんの生活を大切にする、という点から外来での治療が増加しています。

当院の外来化学療法室も治療件数増加に伴い、平成27年11月24日より以前の西2病棟(2階売店隣り)に移転しました。新しい外来化学療法室は、30床(ベッドが20床、リクライニングチェアが10床)です。それぞれのベッドはプライバシーが保てるようカーテンで区切られているほか、テレビを備え付けており、お好きな番組を見ながら楽な姿勢で治療を受けることができます。また、外来化学療法を受けられる方は、当日看護師による採血と問診を受けてもらい、問題にタイムリーに対応できるように医療スタッフ間で連携をとっています。患者さんが、安心、快適、安全に個々の病状に応じた治療を受けるとともに、治療と生活との両立ができるように支援しています。



おしらせ

新潟県立がんセンター新潟病院 平成27年度地域医療連携講演会

- 日時：平成28年3月9日（水）19:00より
- 会場：新潟県立がんセンター新潟病院 講堂（2階）
- プログラム：

講演

講演 1. 「膵癌診療の現状」

内科部長 塩路和彦

講演 2. 「小児がん・AYA（思春期若年成人）世代のがんと地域医療連携」

小児科部長 小川 淳

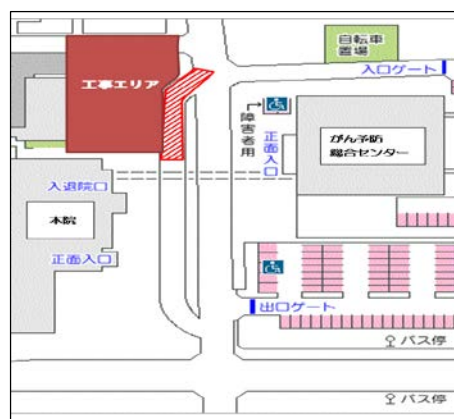
講演 3. 「がん登録に関する話題」

情報調査部長 竹之内辰也

報告 「地域連携・相談支援センターから現況報告」

地域連携・相談支援センター

連絡先：地域連携・相談支援センター（直通電話 025-266-5161）



部分の幅が3mです

リニアック棟増築工事のため正面道路の幅が狭くなります。

平成28年1月下旬から8月頃まで、本院北側においてリニアック棟の増築工事を行います。正面側の構内道路の幅が一部狭く（幅3m）なりますので、通行にはご注意願います。

また、本院側の身障者用駐車場の使用ができなくなります。車いす等をご利用の方は、がん予防総合センター側の駐車場をご利用いただき、センター3階からの連絡通路を通して本院へお出でになることもご検討願います。

皆様方のご理解とご協力をお願いいたします。

がんセンター新潟病院長



●皮膚科外来より

1月より皮膚科の医師が1名増え、2診から3診体制に変更になりました。皮膚腫瘍・皮膚外科の研修目的に、富山大学皮膚科から鹿兒山 浩医師が1年間赴任します。これからも症例のご紹介をよろしくお願いいたします。

●地域連携・相談支援センターより

病診連携予約の受付時間が、午前8時30分から午後7時までになりました。地域連携・相談支援センター2月末頃には本院一階に移転予定です。

新潟県立がんセンター新潟病院 平成28年2月外来診療予定表

		月	火	水	木	金
内科 (金曜Cは新潟大学より)	401診	D 張 高明	A 成澤 林太郎	D 廣瀬 貴之	D 移植外来(4週)	B 小山 建一
	402診	C 大倉 裕二	D 今井 洋介	C 大倉 裕二	D 石黒 卓朗	D 今井 洋介
	501診		F 谷 長行	F 谷 長行		F 谷 長行
	502診	A 青柳(午前) A 加藤(午後)	E 大山 泰郎	A 加藤 俊幸	E 大山 泰郎	B 三浦 理
	601診	B 横山 晶	A 栗田 聡(隔週)	B 三浦 理	A 栗田 聡	B 田中 洋史
	602診	A 塩路 和彦	A 船越 和博	A 佐々木 俊哉	A 船越 和博	C 勝海 悟郎(午前) C 尾崎 和幸(午後)
	201診	B 田中 洋史		B 樋浦 徹		B 庄子 聡
	新患 (2診体制)	A 成澤 林太郎 A 佐々木 俊哉 B 三浦 理 F 谷 長行	A 青柳 智也 B 小山 建一 D 石黒 卓朗	A 船越 和博 B 田中 洋史 D 今井 洋介 E 大山 泰郎	A 加藤 俊幸 B 庄子 聡 C 大倉 裕二 D 廣瀬 貴之	A 塩路 和彦 A 栗田 聡 B 樋浦 徹 D 張 高明
*新患は2名の医師が担当します。当日の担当医についてはお問い合わせください。						
A: 消化器 B: 呼吸器 C: 循環器 D: 血液 E: 内分泌 F: 糖尿病						
小児科	1 診	小川 淳	渡辺 輝浩	細貝 亮介	小川 淳	渡辺 輝浩
	2 診				専門外来(11:00~ 2週は移植外来)	細貝 亮介
乳腺外科 消化器外科	1 診	佐藤 信昭(乳腺)	藪崎 裕(胃)	土屋 嘉昭(肝胆膵)	中川 悟(食道・胃)	瀧井 康公(大腸)
	2 診	金子 耕司(乳腺)	松木 淳(胃)	野村 達也(肝胆膵)	藪崎 裕(胃)	丸山 聡(大腸)
	3 診	長谷川 美樹(乳腺)	會澤 雅樹(胃)	神林 智寿子(乳腺)	番場 竹生(食道・胃)	野上 仁(大腸)
	4 診	田中 花菜	中村 陽二	宇宿/須藤 [交替]	勝見 ちひろ	早見/岡山/日紫喜 [交替]
	予防センター-乳腺		金子/長谷川 [交替]	長谷川 美樹	神林 智寿子	神林/長谷川 [交替]
*乳腺外科は原則予約制です。						
呼吸器外科	1 診	吉谷 克雄	青木 正	岡田 英	青木 正	吉谷 克雄
	2 診		岡田 英			岡田 英
*水曜日は新患の対応はできません。						
整形外科	新患	畠野/大池/佐々木 [交替]	畠野 宏史	小林 宏人	佐々木 太郎	大池 直樹
	再来	小林 宏人	佐々木 太郎	大池 直樹	畠野 宏史	小林 宏人
*完全紹介制です。						
神経内科 (新潟大学より)		河内 泉		二宮 格		石黒 舞乃
脳神経外科	1 診					宇塚 岳夫 (2,4週の午後)
	2 診	高橋 英明		高橋 英明	高橋 英明	高橋 英明
婦人科	1 診	笹川 基	本間 滋	笹川 基	柳瀬 徹	本間 滋
	2 診	柳瀬 徹	菊池 朗	菊池 朗	菊池 朗	笹川 基
	3 診			本間 滋	本間 滋	
*3診は再診予約のみです。						
皮膚科	1 診	高塚 純子	結城 明彦	竹之内 辰也	結城 明彦	高塚 純子
	2 診	結城 明彦	竹之内 辰也	結城(1,3,5週) 高塚(2,4週)	高塚 純子	竹之内 辰也
	3 診	鹿兒山 浩	鹿兒山 浩	鹿兒山 浩	鹿兒山 浩	鹿兒山 浩
泌尿器科	1 診	谷川 俊貴	山崎 裕幸	斎藤 俊弘	斎藤 俊弘	谷川 俊貴
	2 診	小林 和博	ピリーム	小林 和博	山崎 裕幸	ピリーム
*新患は紹介状が必要です。						
眼科	1 診	原 浩昭	原 浩昭	原 浩昭	原 浩昭	原 浩昭
	2 診			佐藤 敬子(午前)	佐藤 敬子(午前)	佐藤 敬子(午前)
頭頸部外科	1 診	佐藤 雄一郎	太田 久幸		佐藤 雄一郎	
	2 診	正道 隆介	正道 隆介		太田 久幸	
放射線治療科	1 診	杉田 公	杉田 公	杉田 公	杉田 公	松本 康男
	2 診	松本 康男	松本 康男	松本 康男	杉田 公	杉田 公
	3 診	佐藤/金本	佐藤/金本	佐藤/金本	佐藤/金本	佐藤/金本
*木曜日は新患の対応ができない場合があります。						
麻酔科		丸山 洋一、冨田 美佐緒(月~金 予約可能)			高田 俊和(火・木・金 予約可能)	
形成外科				坂村 律生	坂村 律生	
緩和ケア科		齋藤 義之	齋藤 義之	齋藤 義之	齋藤 義之	齋藤 義之
*当院に受診中であり、主治医より紹介された方のみ対象です。						
歯科口腔外科 (日本歯科大学より)		午前/午後	午前/午後	午前/午後	午前/午後	午前/午後
*当院に受診中であり、主治医より紹介された方のみ対象です。						

※ 変更となる場合がありますので、事前にご確認ください。(電話:025-234-0011)

新潟県立がんセンター新潟病院 地域連携・相談支援センター(地域連携部門)

TEL:025-234-0011 FAX:025-234-0022 受付時間 月~金 8:30~19:00

がんセンター新潟病院 URL: <http://www.niigata-cc.jp>

原則として予約日当日に行える検査はCT、腹部超音波、MRI、食道・胃・十二指腸内視鏡、PET-CT

時間外のFAXについては、平日夜は翌朝、金曜夜から日曜は月曜の朝にお返事申し上げます